

2015 年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分 : 日本語
グローバル・キャリア論 I Global Career Development:Case Study I		
ナンバリング	科目分野	
	教養学部専門	
担当教員 (ローマ字表記)		
村田 旭 [Murata, Akira]		
対象学生	対象年次	単位数
		2
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室
	金6	教養学部-21
科目群	講義番号	
	F153115	

クラス指定

特になし

他との関連 (関連項目)

開発経済、国際関係

履修条件 (授業に必要な既修得科目または前提知識)

海外留学の経験・興味がある。
将来、国際協力関連の仕事をしたいと考えている。

テーマ・課題

国際協力について理解し、グローバル人材として必要な知識を習得する。

授業科目の到達目標

様々な分野の開発課題について理解し、説明できるようになる。

学科・専修等の学習・教育目標との関連

グローバル人材の育成

授業キーワード

国際協力 (特に、労働、教育、環境、ジェンダー、海外送金、青年海外協力隊など)

授業の内容

毎回テーマを変え、重要な開発課題やその研究内容についてゲストスピーカーを交えて、各々の海外留学や仕事の経験を踏まえて、グローバル人材として必要な知識を習得する。

授業の方法・事前準備学習・事後履修学習

講義
(毎回講義後に小レポートの提出を求める。)

授業展開 (スケジュール)

以下のスケジュールを予定。ゲストスピーカーの都合により内容変更の可能性あり。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 海外送金：アジア開発銀行コンサルタントでの経験
- 第3回 南南協力：JICAインドネシア事務所での経験
- 第4回 教育政策：世界銀行コンサルタントでの経験
- 第5回 ジェンダー：セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンでの経験
- 第6回 保健：Global Fund・Centers for Disease Control and Prevention (CDC)での経験
- 第7回 衛生：世界銀行の取り組み
- 第8回 ボランティア：青年海外協力隊の取り組み
- 第9回 労働経済：カナダ中央銀行での経験
- 第10回 援助政策：在香港日本領事館専門調査員としての経験
- 第11回 若年失業：米国フルッキングス研究所との共同研究
- 第12回 環境：キール世界経済研究所での経験
- 第13回 グローバル人材への道

成績評価方法

小レポート (毎回講義後)、討論

成績評価基準

出席 (2.4点) 小レポート (6.0点) 授業への参加・貢献度 (1.6点)。

テキスト

備考	特になし
----	------

参考図書

備考	特になし
----	------

学生へのメッセージ

重要な開発課題についてゲストスピーカーに講義して頂きます。また、各スピーカーの海外留学・仕事の経験などを踏まえながら、グローバル人材として何が必要なのかを一緒に考える機会にしたいと思います。授業への積極的な参加を期待しています！

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

特になし

連絡先（電話番号）

非公開

連絡先（メールアドレス）

Murata.Akira@jica.go.jp

オフィスアワー

授業後に質問を受け付けます。

連絡先（ホームページ、その他）

特になし

関連ホームページ

特になし

その他・備考

特になし

2015年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分：日本語
Introduction to Japanese Culture Introduction to Japanese Culture		
ナンバリング		科目分野
JPST3192		教養学部専門
担当教員（ローマ字表記）		
加藤 基 [Kato, Motoi]		
対象学生	対象年次	単位数
		2
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室
	土3	国際交流基金・日本語国際センター
科目群		講義番号
		F51064

クラス指定

他との関連（関連項目）

履修条件（授業に必要な既修得科目または前提知識）

テーマ・副題

授業科目の到達目標

- 海外留学生が実感するのが、日本に関する知識不足。特に日本文化に関して問われた際、知識が乏しく、日本人としての本来の発信機能を発揮できなかった経験を持つ学生は多い。
- 真のグローバル人材となるためには、まず、世界遺産はじめ国際的に高く評価された独自の優れた伝統ある日本文化、芸術に対する理解と知見が強く求められる。
- 本講座では、日本の文化、芸術に造詣の深い外国人（在日10年以上の経歴）はじめ内外の著名な知識人をお招きし、見識のあるお話しを伺い、かつ体験や議論を通じて、国際的な視野を持った人材に必要な日本文化に関する素養を養う。

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

Japanese Culture

授業の内容

毎週土曜日、13時～14時30分（1時間半）
パワーポイント使用等講義1時間、質疑応答30分目安

授業の方法・事前準備学習・事後履修学習

内外の日本文化に造詣の深い知識人をお招きし、講義を通じ、日本文化の各ジャンルの神髄を理解すると共に、今後の継承、発展のための課題等をも聴取、意見交換等を実施

授業展開（スケジュール）

1. ガイダンス
2. 東京オリンピックで発信すべき文化
3. 日本の神道
4. 日本語及び日本文学Ⅱ（欧州での普及の現状）
5. 住居・建築・都市計画Ⅱ
6. 茶道Ⅱ（茶室での茶の湯体験授業）
7. 日本の工芸Ⅱ（漆芸・塗り物等）
8. 日本庭園Ⅱ（日本人の自然観）
9. 生け花Ⅱ（体験）
10. 日本食Ⅱ（四季を取り入れた食文化）
11. 能Ⅱ（能楽堂での実演）
12. Cool JapanⅡ
13. 邦楽Ⅱ
14. 映画・アニメⅡ
15. 漆のマイ箸の作成（総括）

成績評価方法

毎回異なる日本文化に造詣のある方がたとの多角的な意見交換を重視する立場より、各授業への参加を最大限に重視し、その結果を、総合的に評価。

成績評価基準

学期末の試験は実施しない。授業中の積極的な発言や各授業後のレポート提出（15回のうち10回以上提出が単位取得の要件）が必須。即ち、各授業への能動的な参加による、その表現力（コミュニケーション能力）や文章力（取り纏め能力）が評価の基準。一般社会に出た時に特に必要とされるという観点からの評価。

テキスト

参考図書**学生へのメッセージ**

卒業後、国際的な進路を目指す際に極めて重要なことは、世界には多種多様な価値観を有する国々（国連加盟国は193ヶ国）が存在するので、大学では、複眼的思考をもって留得することが大切。このような観点より、まず、日本人として、この日本に関する精緻な文化を真摯に学び、自ら世界で発信できるような基盤を築き、国際的な進路を切り開いて頂きたい。

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

連絡先（電話番号）**連絡先（メールアドレス）****オフィスアワー****連絡先（ホームページ、その他）****関連ホームページ****その他・備考**

上述の内容につき不明な場合は、次のメールアドレスに連絡を頂ければお答えします。

Motoikato0314@mail.saitama-u.ac.jp

なお、最初のガイダンスの際に、第2回目からの講義案内（各講師の都合で日程の変更や、場所の変更などが予想される）などは、全てメールで行うことをお願いするので、その際に、連絡先などの関連情報を提示予定。

2015 年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分:日本語	
Japanese Culture Japanese Culture			
ナンバリング		科目分野	
IREL3222		教養学部専門	
担当教員 (ローマ字表記)			
加藤 基 [Kato, Moto]			
対象学生	対象年次	単位数	
		2	
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室	
	土4	国際交流基金・日本語国際センタ	
科目群		講義番号	
		F153114	

クラス指定

他との関連 (関連項目)

履修条件 (授業に必要な既修得科目または前提知識)

テーマ・副題

授業科目の到達目標

- (1) 基本的には、真のグローバル人材となるためIntroduction to Japanese Culture で学んだ日本文化に関する基礎知識をさらに深めことを目的とする。
- (2) そのためには、まず、世界遺産をはじめ国際的に高く評価された独自の優れた伝統ある日本文化、芸術に対するより深い理解と高い知見が強く求められる。
- (3) 本講座では、日本の文化、芸術に造詣の深い外国人 (在日10年以上の経験) はじめ内外の著名な知識人をお招きし、見識のある貴重なお話しを伺い、体験は勿論、深く掘り下げた議論を通じて、国際的に活躍するための将来のキャリアパスをも視野に、高度な人材に必要な日本文化に関する発信機能をも高めるための素養を養う。

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

Japanese Culture

授業の内容

毎週土曜日、14時50分～16時10分 (1時間半)
 パワーポイント使用等講義1時間、質疑応答30分目安

授業の方法・事前準備学習・事後履開学習

内外の日本文化に造詣の深い知識人をお招きし、講義を通じ、日本文化の各ジャンルの神髄を理解すると共に、今後の継承、発展のための課題等をも聴取、意見交換等を実施

授業展開 (スケジュール)

1. ガイダンス
2. 文化・教育を通じての日本の国際協力
3. 日本の宗教意識 (世界遺産、平泉の浄土思想)
4. 日本語及び日本文学 (欧州での普及の現状)
5. 住居・建築・都市計画
6. 茶道 (茶室での茶の湯体験授業)
7. 日本の工芸・美術 (漆器・漆器物等)
8. 日本庭園 (日本人の自然観)
9. 生け花 (デモンストレーション)
10. 日本食 (四季を取り入れた食文化)
11. 能(能楽堂での体験授業)
12. Cool Japan
13. 邦楽
14. 映画・アニメ
15. 日本の文化交流及び文化協力 (総括)

成績評価方法

毎回異なる日本文化に造詣のある知識人、文化人との多角的な意見交換を重視する立場より、各授業への参加を最大限に重視し、その結果を、総合的に評価。

成績評価基準

学期末の試験は実施しない。授業中の積極的な発言や各授業後のレポート提出 (15回のうち10回以上提出が単位取得の要件) が必須。即ち、各授業への能動的な参加による、その表現力 (コミュニケーション能力) や文章力 (取り纏め能力) が評価の基準。一般社会に出た時に特に必要とされるという観点からの評価。

テキスト

参考図書**学生へのメッセージ**

卒業後、国際的な進路を目指す際に極めて重要なことは、世界には多種多様な価値観を有する国々（国連加盟国は193ヶ国）が存在するので、大学では、複眼的思考をもって習得することが大切。このような観点より、まず、日本人として、この日本に関する精緻な文化を真摯に学び、自ら世界で発信できるような基盤を築き、国際的な進路を切り開いて頂きたい。

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

連絡先（電話番号）**連絡先（メールアドレス）****オフィスアワー****連絡先（ホームページ、その他）****関連ホームページ****その他・備考**

上述の内容につき不明な場合は、次のメールアドレスに連絡を頂ければお答えします。

Motoikato0314@mail.saitama-u.ac.jp

なお、最初のガイダンスの際に、第2回目からの講義案内（各講師の都合で日程の変更や、場所の変更などが予想される）などは、全てメールで行うことをお願いするので、その際に、その他必要な連絡先などの関連情報を提示予定。



2015 年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分 : 日本語	
International Development Consulting:Practical Application			
International Development Consulting:Practical Application			
ナンバリング		科目分野	
IDEV3072		教養学部専門	
担当教員 (ローマ字表記)			
浦出 隆行 [Urade, Takayuki]			
対象学生	対象年次	単位数	
		2	
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室	
	火4	教養学部-32	
科目群		講義番号	
		F153103	

クラス指定

他との関連 (関連項目)

履修条件 (授業に必要な既修得科目または前提知識)

「国際開発援助論入門」、「Introduction to Development Economics」を既に履修しているか、この科目と同時に履修することが望ましい。

テーマ・課題

授業科目の到達目標

国際開発援助の分野における開発コンサルタントの意義・役割を理解するとともに、開発コンサルティング・ビジネスが対象とする経済・財政・金融、中小企業支援、インフラ開発、教育開発、社会開発等の各分野に対する理解を深める。

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

International Development, Economic Policy, Education, Social Development, Post-Conflict Management, Economic Growth

授業の内容

開発コンサルティング業界をとりまくビジネス環境や業務内容の紹介、開発コンサルティング・ビジネスが対象とする経済・財政・金融、中小企業支援、インフラ開発、教育開発、社会開発等の各分野におけるケーススタディ、ワークショップを通じた開発コンサルティング業務の疑似体験等。

授業の方法・事前準備学習・事後履修学習

個別の開発テーマを扱った12回の講義を経て、残りの3回でグループ(4~5人で構成)による模擬コンサルティングのプレゼンテーションを行なう。

授業展開 (スケジュール)

- #1 Introduction+Lecture (Development Consulting Business & the Role of Consultants)
- #2 Economic Analysis
- #3 Financial Analysis
- #4 Introduction to Education Development
- #5 Basic Education Development
- #6 Smart Communities & Urban IoT
- #7 Growth Diagnostics (1)
- #8 Regional Development: Japanese Experience
- #9 Impact of the Private Sector Investment on Economic Growth in Developing Countries - Examples in Africa
- #10 Growth Diagnostics (2)
- #11 Mini Workshop: Presentation Skills for Development Consultants
- #12 Non-formal Education Development
- #13 Girls Education
- #14 Workshop #1 (Education)
- #15 Workshop #3 (Economic Policy) + Wrap Up

成績評価方法

出席 (20%)、授業への貢献度 (40%)、ワークショップ (40%)

成績評価基準

授業への貢献度は、良質な質問やコメント、クラス内での活発な議論への参加等により評価する。ワークショップの評価は、チームのパフォーマンスおよび個人としてのチームへの貢献の両面から評価する。

テキスト

備考	特に定めない。
----	---------

参考図書

備考	その都度必要に応じて配布する。
----	-----------------

学生へのメッセージ

受講者は本講における実務家との交流を通して、開発コンサルティングという職業への理解を深めるとともに、開発援助における関心分野を何かひとつでも持つことが期待される。

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

20人程度

連絡先（電話番号）

連絡先（メールアドレス）

オフィスアワー

連絡先（ホームページ、その他）

関連ホームページ

その他・備考

上記の授業の内容と授業の方法は、履修者数や履修者の習熟度などの状況に応じて変更することもある。

2015 年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分 : 日本語	
Leadership and Management Practices in International NGOs			
Leadership and Management Practices in International NGOs			
ナンバリング		科目分野	
IDEV3082		教養学部専門	
担当教員 (ローマ字表記)			
福井 美穂 [Fukui, Miho], 栗原 俊輔 [Kurihara, Shunsuke], 穂積 武寛 [Hozumi, Takehiro]			
対象学生	対象年次	単位数	
		2	
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室	
	木5	教養学部-32	
科目群		講義番号	
		F153108	

クラス指定

他との関連 (関連項目)

履修条件 (授業に必要な既修科目または前提知識)

テーマ・題意

授業科目の到達目標

Before completion of this course each student should be able to;
 Understand the purpose and role of International NGOs in development and emergency operations,
 Describe the historical background of International NGOs and their diverse activities,
 Describe the fundamentals of challenges which NGOs face in their management and field operations,
 Understand the importance of the basic principles which International NGOs use in the field,
 Demonstrate the understanding on International NGOs' project and administrative management,
 Evaluate the effectiveness of various types of management practices related to International NGOs.

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

授業の内容

Recognition of NGOs is shared widely among people compared with before. There is no simple definition of NGOs agreed yet. In our global society and its world their working fields are extended from economic poverty to structural poverty, conflicts, and natural disaster. They even challenge social justice and advocacy. So called "International NGOs" have different origins from Euro-America, Japan and developing countries but share an objective to support people in need who are out of reach from international and governmental organizations.

授業の方法・事前準備学修・事後履修学修

授業展開 (スケジュール)

No.	内容
第1回	1st October 2015 Introduction and Orientation Lecturer: Miho FUKUI The first session will be comprised of followings; - self-introductions, - introduction of the course, sessions and lecturers The outline of the lecture and course work will be suggested with printed materials. - And Group presentation assignment. Group presentation: Students shall be assigned to form a group and prepare for the group presentation at Session 13 and 14.
第2回	8th October 2015 NGOs in a Nutshell: Salient features & limitations Lecturer: Takehiro HOZUMI Learning Objectives - To understand various aspects that define NGO/NPO/CSOs - To learn the brief historic development of NGOs - To have an overall image of the current status of NGOs in Japan - To know the NGOs' roles in society, their achievements and weaknesses
第3回	15th October 2015 Tackling Landmines: NGO's concerted efforts and interactions with public sector Lecturer: Takehiro HOZUMI Learning Objectives - To understand the gravity of damages that landmines could inflict on the general public - To know the international laws that address to landmine issues

- To learn the roles NGOs played in the development of the international discussion
 - To know the remaining issues to be solved
- 22nd October 2015
NGO building peace in post-conflict society: Afghanistan DDR project
Guest Speaker: Mr. Kenta AOKI(Ochanomizu University)
(KURIHARA)
- 第4回 Learning Objectives
- To discuss the activities of INGOs in post-conflict situation of Afghanistan.
 - To know the reality of field by explaining the experiences of field study of INGOs focusing on Disarmament, Demobilisation and Reintegration of former soldiers.
- 29th November 2015
Supporting Local NGOs in post-conflict society: Afghanistan Civil Society Support project
Guest Speaker: Mr. Kenta AOKI (Ochanomizu University)
(KURIHARA)
- 第5回 Learning Objectives
- To discuss the activities of NGOs in post-conflict situation of Afghanistan.
 - To know the reality of field by explaining the experiences of field study of NGOs focusing on rehabilitation field..
- 5th November 2015
Rights Based Approach (RBA) and NGOs
Lecturer: Shunsuke KURIHARA
- 第6回 Learning Objectives
- To explore and understand the International NGOs' method called Rights Based Approach (RBA) for tackling the poorest of poor in the developing countries
- Summary
It is not about economic poverty, but it may be caused by policy or regulation that disadvantages community. It is not about their learning ability, but they may not have opportunities to learn. RBA is a tool that illustrates implications of the complicated causes for poverty not only by economic capacity. The tool also leads to identifying what to tackle for eradicating poverty. The session will introduce RBA with some cases in the field practices by the International NGOs. The session participants are also expected to apply the concept into any case of their day-to-day life at in-class discussion.
- 12th November 2015
Empowering Civil Society: Sri Lanka's Tea Plantation Community Tackling for Their Entitlement
Lecturer: Shunsuke KURIHARA
- 第7回 Learning Objectives:
- To learn about the overall idea of civil society in the developing countries
 - To understand significance of civil society in community development through case study of the tea plantation community in Sri Lanka
- Summary
Civil society is an ambiguous term, but quite crucial for International NGOs to rationalize their community development initiatives in the developing countries. Civil society is defined as a group that represents citizens without profit and politics. Critical keys to developing community for poverty eradication include security of civil society. The case of civil society in the tea plantation community in Sri Lanka illuminates issues among the community members struggling with civic rights for opportunities and choice under the conventional plantation system. In this session, the participants are invited to discussion to identify obstacles to securing opportunities and choice for the tea plantation community.
- 19th November 2015
Social Change and NGOs: From Welfare to Advocacy for Eradicating Poverty
Lecturer: Shunsuke KURIHARA
- 第8回 Learning Objectives
- To learn about the role of NGOs, especially in the aspect of social development, compared with some mega-sized projects of World Bank or other international institutions
- Summary
Social development aims for people's welfare, to eradicate the poverty, promote the primary health care, raise the literacy rate, generate income for women, empower the marginalized people and so on, though these NGO's activities tend to focus on small communities and have small accomplishments in rural areas in the third world. On the other hand, it is always difficult to see what does good to people, especially where the serious economic gap has been visible. This session tries to discuss what "social development" is and does from NGOs' (natives' point of view.
- 26th November 2015
Conflict Resolution and NGOs
Lecture: Shunsuke KURIHARA
- 第9回 Learning Objectives
- To understand the overall context of conflicts and NGOs' intervention
 - To learn about challenges and agenda for NGOs' field operation
- Summary
Conflicts are one of the most serious issues and challenges that INGOs are tackling around the world, not only in the developing countries but also the developed countries or even between them. In the recent context of conflict, it is getting more complex, but INGOs' mission has always been on the single track for assisting the most vulnerable people affected by conflicts. Students will learn and understand about the INGOs' hands-on activities in the conflict areas as well as challenges.
- 3rd December 2015
Civil Societies in Japan and developing countries through social innovation
Guest speaker: Misuko Nishimori (PARCIC)
(KURIHARA)
- 第10回 Outline
- History and Activities of PARC and PARCIC (PARC Interpeople's Cooperation)
 - History of PARC and PARCIC
 - Activities of PARC -Activating civil societies in Japan
 - Activities of PARCIC -Implementing the social business projects in developing countries
 - Implementing the projects in Sri Lanka after the civil war
 - Emergency relief projects for the war affected people
 - Social business projects for vulnerable women groups
- 10th December 2015
NGO Management 1: Financing and staffing
Lecturer: Takehiro HOZUMI
- 第11回 Learning Objectives
- To get acquainted with various organizations in terms of financing their activities
 - To know what kind of financial resources are available for NGOs
 - To know emerging trends in fundraising for the NGOs
 - To get a picture of what it means to work in NGOs
- 第12回 17th December 2015
Fundraising in Japan
Guest speaker: Masataka UO, the founder and CEO of Japan Fundraising Association
(Fukui)
Further details to be confirmed.

第13回	7th January 2016 Workshop with group presentations Lecturer: Miho FUKUI Groups assigned at Session 1 to work on emergency/peace-building operations shall make a presentation of their Project proposal.
第14回	14th January 2016 Workshop with group presentations Lecturer: Miho FUKUI Groups assigned at Session 1 to work on development programs shall make a presentation of their Project proposal.
第15回	21st January 2016 Summary and wrap up Lecturer: Miho FUKUI The Session 15 will be comprised of followings; - Reviewing of each session, - Clarification of terms and concepts which were not clearly understood, - Discussion on how better international NGOs would function in their operational field.

成績評価方法

成績評価基準

Participation (50%):

Participation will include class attendance and class discussion. Students are expected to attend all classes and participate in discussions.

Report and Presentation (50%):

Report will include submission of the questionnaire for the Guest Speaker's lectures, and the term paper to summarize the group presentation. Students will be expected to bring together the concepts learnt in class. Presentation will include group presentations.

テキスト

参考図書

備考	Please refer to the syllabus provided at the each session.
----	--

学生へのメッセージ

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

連絡先 (電話番号)

連絡先 (メールアドレス)

See below.

オフィスアワー

連絡先 (ホームページ、その他)

関連ホームページ

その他・備考

Co-Lecturers' Contact Information

Dr. Shunsuke KURIHARA:shunsuke_kurihara@yahoo.co.jp

Ms. Miho FUKUI:cresnomi@gmail.com

Mr. Takehiro HOZUMI:takehiro.hozumi@aarjapan.gr.jp

If you wish to have a consultation meeting with any one of lecturers, please do contact one by email before the meeting date.

2015 年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分:日本語
Communication for Global Leaders Communication for Global Leaders		
ナンバリング		科目分野
IDEV3092		教養学部専門
担当教員 (ローマ字表記)		
カール・ツェンスタイン, アxel [Karpenstein, Axel]		
対象学生	対象年次	単位数
		2
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室
	月6	教養学部-23
科目群		講義番号
		F153105

クラス指定

None

他との関連 (関連項目)

This course is part of the Saitama Prefecture Global Leadership Program, which is open to students from other universities who have participated in a study-abroad program.

埼玉県グローバルリーダー研修プログラム科目
他大学の留学から帰国した学生にも開放しています。

履修条件 (授業に必要な既修得科目または前提知識)

Ability to communicate in English. Prior overseas experiences (study abroad, internships) are useful.

** There is no online registration available for this course. Interested students are asked to contact the Liberal Arts Department at Saitama University if they wish to enrollment.**
** web履修登録はできません。教養学部窓口で履修希望を申し出てください**

テーマ・副題

Familiarization with Presentation, Leadership, and Facilitation Skills, and with Intercultural Communication.

授業科目の到達目標

Improved knowledge of presentation, leadership, and international communication skills. Ability to work in an internationalized, global environment.

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

Intercultural Communication, Leadership, Presentation skills, Facilitation, Conflict management

授業の内容

Globalization has lead to an unprecedented amount of inter-national integration. No matter whether working for a domestic or a foreign company, for the private sector, academia, or government, traveling overseas and working with people from other countries and cultures has become the standard for most professions.

But working successfully in such an environment requires knowledge of the rules of international communication and the skills required of an international leader! This course will provide students an opportunity to familiarize themselves with fundamental skills for "Global Leaders" such as: presenting oneself, giving presentations on topics, competency-based interviewing, leadership, facilitation, and team management, and intercultural communication.

授業の方法・事前準備学習・事後展開学習

1. Lecturing, including guest lectures
2. Applied exercises and role playing
3. Class discussions

授業展開 (スケジュール)

1. Introduction: What skills do Global Leaders need?

- *** I. Presentation skills ***
2. Presenting yourself
 3. Presentation skills
 4. Interviewing skills

- *** II. Leadership and Facilitation ***
5. What is Leadership?
 6. Leadership I
 7. Leadership II

- *** III. Intercultural Communication ***
8. Theory & practice
 9. Case Study: the United Nations
 10. Psychological and sociological foundations
 11. Cultural conflict

12. Teamwork

*** IV. Miscellaneous ***

- 13. Time management
- 14. Negotiations: How to get what you want
- 15. Wrap-up

成績評価方法

Students will be evaluated based on their participation in class discussions and exercises, and the completion of homework assignments.

成績評価基準

Active participation in class and completion of class assignments.

テキスト

備考	None
----	------

参考図書

備考	Recommendations will be given upon request.
----	---

学生へのメッセージ

This is a highly practical class that aims at providing students the knowledge and skills they need to work in an internationalized environment.

Good English proficiency is a prerequisite for both being able to understand the class and for being able to participate in the class discussions.

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

20

連絡先（電話番号）

(080) 3028-9151 (If no one answers, please leave a message.)

連絡先（メールアドレス）

karpenstein@gmail.com

オフィスアワー

Mon 15:00-17:00, Wed 10:30-12:30. I am also available after class, or by appointment via email.

連絡先（ホームページ、その他）

関連ホームページ

その他・備考

2015 年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分 : 日本語
Insights into Global Development Insights into Global Development		
ナンバリング	科目分野	
IDEV3102	教養学部専門	
担当教員 (ローマ字表記)		
カーペンシュタイン, アクス [Karpenstein, Axel]		
対象学生	対象年次	単位数
		2
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室
	水3	教養学部-34
科目群	講義番号	
	F153106	

クラス指定

None

他との関連 (関連項目)

Insights into International Relations

This course is part of the Saitama Prefecture Global Leadership Program, which is open to students from other universities who have participated in a study-abroad program.

埼玉県グローバルリーダー研修プログラム科目
他大学の留学から帰国した学生にも開放しています。

履修条件 (授業に必要な既修得科目または前置知識)

Prior knowledge of International Relations and/or International Development is not required, but useful.

** There is no online registration available for this course. Interested students are asked to contact the Liberal Arts Department at Saitama University if they wish to enrollment. **

** web履修登録はできません。教養学部窓口で履修希望を申し出てください**

テーマ・議題

What are the important issues in Global Development and International Economic Relations? The course will examine four major, current topics, while helping students to improve their English reading and writing skills.

授業科目の到達目標

1. In-depth examination of 4 major issues in Global Development.
2. Development of English reading skills.
3. Practicing essay writing.
4. Practicing and improving English language skills.

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

Global Development, International Relations, International Economic Relations

授業の内容

The 21st century has seen the globalization of trade, finance, and services progress rapidly and relentlessly, rendering national borders more permeable as well as increasingly meaningless. At the same time, global poverty and inequality among countries persists, and the international economic system is being challenged by the emergence of new, powerful actors on the international scene such as the BRICS countries (Brazil, Russia, India, China, and South Africa).

This course will provide students the opportunity to examine some of the important topics in Global Development and International Economic Relations in greater depth. Class discussions will help students improve their ability to converse about these issues. In addition, the course places a strong emphasis on practicing reading comprehension of related English-language materials, while assigning essays on a regular basis to improve essay writing skills.

授業の方法・事前準備学習・事後展開学習

1. Reading of English language texts.
2. Class discussion
3. Essay writing
4. Collection and study of English language vocabulary

授業展開 (スケジュール)

1. Introduction to class
Class structure and overview. Introduction to analytical reading and speed reading.

*** Topic I: Poverty and Development ***

2. Structural adjustment
3. Social businesses, BoP
4. Free trade - fair trade?
5. Foreign aid

*** Topic II: Globalization***

6. Globalization of capital and national consequences
7. Offshoring
8. Anti-Globalization Movement

*** Topic III: Regional Integration ***

9. Regional trading agreements
10. Asian regional cooperation I
11. Asian regional cooperation II

*** Topic IV: (To be chosen by the students) ***

12. part I
13. part II
14. part III

15. Class wrap-up

成績評価方法

Students will be evaluated based on both their participation in class (50% of final grade) and the cumulative score of their three essays (50% of final grade).

Additionally, each student will be required to take turns with creating vocabulary lists from the class discussions / readings, which (s)he and the fellow students are expected to memorize. Occasional vocabulary tests will be given in class to track the learning process.

成績評価基準

Active participation in class activities in English.
Ability to discuss a topic and present one's position in written form in a structured, logical manner.
Participation in collecting vocabulary, and mastering it.

テキスト

備考	None
----	------

参考図書

備考	Recommendations will be given upon request.
----	---

学生へのメッセージ

This course provides students that are interested in Global Development the opportunity to examine and discuss important, current topics in depth while practicing both their comprehension of related English-language materials and their academic writing skills.

Being able to understand quickly the content of written documents, and to draft concise, well structured essays are essential tools that are necessary not only for work in academia, but in most professions today.

The topic of the fourth part of the class will be decided by the students.

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

20

連絡先 (電話番号)

(080) 3028-9151 (If no one answers, please leave a message.)

連絡先 (メールアドレス)

karpenst@mail.saitama-u.ac.jp

オフィスアワー

Mon 15:00-17:00, Wed 10:30-12:30. I am also available after class, or by appointment via email.

連絡先 (ホームページ、その他)

関連ホームページ

その他・備考



2015年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分：日本語	
Leadership and Management Practices in International Organizations			
Leadership and Management Practices in International Organizations			
ナンバリング		科目分野	
IDEV3112		教養学部専門	
担当教員（ローマ字表記）			
長峰 美夫 [Nagamine, Yoshio], 宮武 雅子 [Miyatake, Masako]			
対象学生	対象年次	単位数	
		2	
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室	
	土2	国際交流基金・日本語国際センター	
科目群		講義番号	
		F153107	

クラス指定

他との関連（関連項目）

履修条件（授業に必要な既修科目または前提知識）

受講生は、高度で複雑な概念を英語で発言し記述できる英語力を持っていることが望まれる。

テーマ・副題

授業科目の到達目標

コース修了により受講生は、(a) 国際連合、世界銀行等の国際機関の仕事全般及び、当該国際機関のダイナミクスを理解し、(b) 学生の将来のキャリアプランを助け、(c) 国際機関でリーダーシップを発揮し、仕事をこなしていくためには、コミュニケーション・ネゴシエーション技術が極めて重要であることを認識し、(d) 基礎的なコミュニケーション・ネゴシエーション技術を習得した上で、特に異文化間交渉、感情のコントロール、難しい交渉相手との対処の仕方という上級の交渉技術も学び、さらに(e)真に国際的であるということの意味を理解する。

また、国際開発活動に関する授業を通じて受講生は国際開発援助機関の様々な国際活動と共に国際開発の現場が直面する様々な課題を学ぶ。

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

- ・国際連合、国連
- ・世界銀行
- ・国際開発
- ・政府開発援助
- ・国際開発金融機関
- ・コミュニケーション及びネゴシエーション技術
- ・異文化間交渉

授業の内容

コースのコンセプトは“インサイダーによる国際機関ガイド”及び“国際機関で仕事をする上で必要不可欠な交渉技術”である。受講生は国連、世銀、その他の国際機関の活動や課題を学ぶと共に効率性や有効性をクリティカルに見る手法を学ぶ。さらに受講生はかかる国際機関で求められるリーダーシップやマネジメント力及びそれらに必要なスキルを磨くことについても学ぶ。

授業の方法・事前準備学習・事後履修学習

授業展開（スケジュール）

No.	内容
第1回	Oct 3, 2015 Course Overview and Instructor's self-introduction コース概要説明と講師自己紹介 宮武(Miyatake)
第2回	Oct 10, 2015 Official Development Assistance under International Framework 国際的枠組みに基づくODA 長峰(Nagamine)
第3回	Oct 17, 2015 Importance of Effective Communication/Negotiation in the international organizations, and the Principles of Effective Negotiation 国際機関でのコミュニケーション・交渉の重要性と交渉の基本原則 宮武(Miyatake)
第4回	Oct 24, 2015 Basic Negotiation Skills Overview & Roleplaying

	基礎的交渉技術概論とロールプレイ 宮武(Miyatake)
第5回	Oct 31, 2015 Advanced Negotiation Skills I – How to Deal with Cultural Differences & Roleplaying 交渉技術上級編I-異文化の壁を乗り越える交渉方法及びロールプレイ 宮武(Miyatake)
第6回	Nov 7, 2015 Advanced Negotiation Skills II – How to Control Your Negative Emotions in Negotiations & Roleplaying 交渉技術上級編II-交渉における感情のコントロール及びロールプレイ 宮武(Miyatake)
第7回	Nov 14, 2015 Advanced Negotiation Skills III – How to Deal with Difficult People in Negotiations & Roleplaying 交渉技術上級編III-難しい交渉相手に対処する方法とロールプレイ 宮武(Miyatake)
第8回	Nov 28, 2015 Japanese ODA Through JICA Activities JICAによる日本のODA 長峰(Nagamine)
第9回	Dec 5, 2015 Project Cycle of Development Project (Case of ODA Loan Project) 開発プロジェクトのプロジェクトサイクル (円借款事業の例) 長峰(Nagamine)
第10回	Dec 12, 2015 Multilateral Development Banks (International Development Finance Institutions) 国際開発金融機関 長峰(Nagamine)
第11回	Dec 19, 2015 Aid Harmonization and International Development Front in Developing Countries 援助協調と開発途上国における国際開発の現場 長峰(Nagamine)
第12回	Jan 9, 2016 Development Cooperation Framework in Africa アフリカにおける開発協力枠組み 長峰(Nagamine)
第13回	Jan 16, 2016 United Nations, Part I – Sharing Experiences of Working at UN (a guest speaker) 国連 Part I-国連での勤務経験を語る (ゲストスピーカー) 宮武(Miyatake)
第14回	Jan 23, 2016 United Nations, Part II – Sharing Experiences of Working at UN Working at UN (a guest speaker) 国連 Part II-国連での勤務経験を語る (ゲストスピーカー) 宮武(Miyatake)
第15回	Jan 30, 2016 World Bank – Sharing Experiences of Working at World Bank (a guest speaker) 世銀での勤務経験を語る (ゲストスピーカー) 宮武(Miyatake)

※※※ 成績評価方法

※※※ 成績評価基準

出席状況:30%
授業態度・貢献度:35%
フィードバック・シート:35%
最低合格点:60点

※※※ テキスト

備考	授業の中で必要に応じて提示
----	---------------

※※※ 参考図書

※※※ 学生へのメッセージ

※※※ 人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

※※※ 連絡先 (電話番号)

※※※ 連絡先 (メールアドレス)

※ ※ オフィスアワー

※ ※ 連絡先 (ホームページ、その他)

※ ※ 関連ホームページ

※ ※ その他・備考



2014 年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分 : 日本語
International Public Administration International Public Administration		
ナンバリング		科目分野
IREL3202		教養学部専門
担当教員 (ローマ字表記)		
小尾 尚子 [Obi, Naoko]		
対象学生	対象年次	単位数
		2
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室
	土1	国際交流基金・日本国際センター
科目群		講義番号
		F153109

クラス指定

他との関連 (関連項目)

埼玉県グローバルリーダー研修プログラム科目
他大学の留学から帰国した学生にも開放しています。

履修条件 (授業に必要な既修得科目または前提知識)

web履修登録はできません。教養学部窓口で履修希望を申し出てください。

テーマ・副題

授業科目の到達目標

At the end of the course (15 sessions), the students will be able to understand who a refugee is, what the protection of refugees would entail and the various responses of the international community to forced displacement.

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

授業の内容

授業の方法・事前準備学習・事後展開学習

The students are expected to actively participate in the class (making presentations on selected themes as well as participating in the discussions during the class.)

授業展開 (スケジュール)

1. Introduction and overview of the course
2. International Refugee Regime: Historical overview and the evolution of the international refugee regime
3. The State of the World's Refugees: What are the contemporary issues confronting the international community over the protection of refugees?
4. International protection of refugees and the limitations that the international community faces
 - A. What is 'international protection' of refugees?
 - B. International protection of refugees and mixed migration
6. Lecture by a guest speaker (planned)
7. C. Protection of refugee women
8. D. Protection of refugee children
9. E. Protection of refugees in urban areas
10. Involvement of international organizations, Regional organizations, NGOs, civil society in providing protection and assistance
11. Financial, human and material resources of international organizations to protect and assist refugees?
12. Durable solutions to refugee problems
 - A. Voluntary repatriation/B. Local integration in first country of asylum/C. Resettlement
13. Internally Displaced Persons (IDPs)
14. Climate change and human displacement
15. Towards a more effective international refugee regime: What needs to be looked at?

成績評価方法

成績評価基準

テキスト

参考図書

学生へのメッセージ

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

連絡先 (電話番号)

連絡先 (メールアドレス)

オフィスアワー

連絡先 (ホームページ、その他)

関連ホームページ

その他・備考

2015 年度 後期 教養学部 教養学科		日英区分 : 日本語
Japanese Politics and Foreign Policy Japanese Politics and Foreign Policy		
ナンバリング	科目分野	
IREL3212	教養学部専門	
担当教員 (ローマ字表記)		
カーペンシュタイン, アxel [Karpenstein, Axel]		
対象学生	対象年次	単位数
		2
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室
	月3	教養学部-21
科目群	講義番号	
	F153113	

クラス指定

None

他との関連 (関連項目)

This course is part of the Saitama Prefecture Global Leadership Program, which is open to students from other universities who have participated in a study-abroad program.

埼玉県グローバルリーダー研修プログラム科目
他大学の留学から帰国した学生にも開放しています。

履修条件 (授業に必要な既修得科目または前提知識)

Students will need an advanced command of English to participate successfully in this course. Not only is the course conducted in English, active participation each week is a prerequisite.

** There is no online registration available for this course. Interested students are asked to contact the Liberal Arts Department at Saitama University if they wish to enrollment.**

** web履修登録はできません。教養学部窓口で履修希望を申し出てください**

テーマ・議題

This course provides an overview over Japan's political system and miscellaneous policy areas, including economic, energy, and foreign policy.

授業科目の到達目標

1. Improved knowledge of Japan's political system and policy areas from a comparative perspective.
2. Improved analytical thinking skills.
3. Improved English language skills.

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

Japan, Political System, Politics, Diplomacy, International Relations

授業の内容

In a relative short period of time, Japan has undergone tremendous changes. After the self-imposed seclusion under the sakoku policy of the Edo Shogunate, Japan underwent rapid modernization and "Westernization" during the Meiji Period. In the 20th Century, early "Taisho Democracy" soon gave way to the militarism, expansionism, and the authoritarian government of the 1930s and 1940s.

Destruction and defeat during WWII was followed by the economic boom of the 1950s and 1960s, which put Japan onto the way to challenging the United States of America as the world's No. 1 economy. But then the "Bubble burst" and the "lost decade(s)" ensued; economic stagnation also prompted criticism of "political stagnation".

Today, Japan is facing a rapidly changing international environment in which its neighbor China is yielding formidable economic, military, and political power. New actors on the international stage such as the BRICs and MINT countries create new threats but also new opportunities.

This course will introduce interested students to the different facets of Japan's political landscape: the political system that emerged after WWII and its recent changes; policy areas including economic, energy, immigration, and foreign policy; and Japan's international relations and its place within global politics. Through this course, Japanese and non-Japanese students alike should be able to obtain a comprehensive picture of Japanese politics and a better understanding of the dynamics underlying recent political developments.

授業の方法・事前準備学習・事後展開学習

1. Lectures, including guest lectures
2. Class discussions
3. Reading assignments
4. Short writing assignments

授業展開 (スケジュール)

1. Course Introduction. Japanese Politics in Comparative Perspective

*** (I) Structures ***

2. Postwar Democracy, the 1955 System and beyond
3. Religion and Politics
4. State-Business-Society: The Developmental State

- 5. Left and Right in Japanese Politics
- 6. Monarchy
- 7. Civil Society

*** (II) Policies ***

- 8. Economic, Labor, and Welfare Policy
- 9. Immigration Policy
- 10. Energy Policy
- 11. Defense and Security Policy

*** (III) Foreign Relations ***

- 12. China
- 13. Taiwan and the Korean Peninsula
- 14. The US, Russia, and Southeast Asia

*** (IV) Conclusion ***

- 15. Wrap-up: Japan in International Politics

成績評価方法

Students will be evaluated based entirely on their participation in class (100% of final grade). Regular class attendance and active participation in the class discussions are therefore essential!

成績評価基準

Active participation in class and completion of class assignments.

テキスト

備考	None
----	------

参考文献

備考	Recommendations will be given upon request.
----	---

学生へのメッセージ

Politics is a part of daily life, and understanding the political structure and dynamics of one's country is essential for fulfilling one's role as a mature democratic citizen.

Students will profit from this course not only by obtaining a comprehensive understanding of Japanese politics, but also by placing Japan into a comparative perspective, and by linking the topics to general debates in Political Science.

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

20

連絡先 (電話番号)

(080) 3028-9151 (If no one answers, please leave a message with your name, phone number or email add

連絡先 (メールアドレス)

karpenstein@gmail.com

オフィスアワー

Mon 15:00-17:00, Wed 10:30-12:30. I am also available after class, or by appointment via email.

連絡先 (ホームページ、その他)

関連ホームページ

その他・備考



2015年度前期 教養学部 教養学科		日英区分:日本語
Thought, Philosophy and Religion of Japan Thought, Philosophy and Religion of Japan		
ナンバリング	科目分野	
	教養学部専門	
担当教員 (ローマ字表記)		
コプフ グレオン [Kopf, Gereon]		
対象学生	対象年次	単位数
		2
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室
	集中	大宮2号館1011号
科目群	講義番号	
	F34216	

クラス指定

他との関連 (関連項目)

履修条件 (授業に必要な既修得科目または前提知識)

テーマ・副題

授業科目の到達目標

1. Students will exhibit an appreciation of the diversity, wealth, and profundity of the religious and philosophical traditions of Japan.
2. Students will critically engage with the basic history, texts, concepts, beliefs, and practices of as well as issues raised by the religious and philosophical traditions of Japan
3. Students will familiarize themselves with the categories of "religion" and "philosophy"
4. Students will improve their skills in critical thinking and communicating ideas.
5. Students will practice listening, speaking, reading, and writing the English language.

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

授業の内容

Are Japanese people religious? There are many answers to this question. Even surveys conducted by various groups and institutions render a whole spectrum of different results. What beliefs do Japanese hold with regard to human nature, the individual's relationship to society, and the afterlife? What practices help Japanese cope with the "big" events in life (birth, adulthood, marriage, death) and the annual rhythm (new year, bon, etc)?

While the majority of the Japanese people seem to identify themselves as "non-religious" and deny any religious affiliation, more than half of the Japanese believe in spirits and/or ghosts, visit temples and shrines at certain times of the year and their lives, and even call on Buddhist priests for funerals and/or mourning services. In addition, surveys that invite Japanese to identify with a specific religious tradition are, frequently, difficult to evaluate as many Japanese feel they belong to more than one tradition. How can we make sense of these responses?

This course explores the traditional beliefs and practices in Japan, investigates what religion is, and examines if and how this category can be applied to the practices and beliefs in Japan. Specifically, we will examine Japanese beliefs about the world, human nature, spirits and ghosts, human interaction, and the meaning of life. What year and life cycle event are celebrated in Japan? Which of these beliefs and practices are religious? Do these beliefs qualify as philosophy? What is the role of beliefs, ideology, and rituals in the life of the Japanese people?

授業の方法・事前準備学習・事後履修学習

Class sessions will combine lectures, class discussions, movie clips, (very, very, very) short readings, (very, very, very) short writing and peer review, and activities.

授業展開 (スケジュール)

Monday, August 24, 2015: Religion and Philosophy

- 1) are there religion and philosophy in Japan?
recommended reading: The Invention of Religion in Japan, "Introduction" (pdf file).
- 2) are Shintō "kami" and the Christian "God" the same? - how to translate concepts?
recommended reading: Shintō - the way home, chapter 1 (pdf file).
- 3) self-cultivation (修行) - religion, sports, or ethics?
recommended reading: Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 943-952.

Tuesday, August 25, 2015: Buddhist thought and practice

8:00 a.m.: essay 1 due

- 4) Mahāyāna Buddhism (大乘仏教) - what do Buddhists in Japan believe and practice?
recommended: Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 64-74.
- 5) Mandalas, rituals, incantations - what is esoteric Buddhism (密教)?
recommended: Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 51-64.
- 6) Zen - martial arts, mediation, and crazy monks
recommended: Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 163-183.

Wednesday, August 26, 2015: Institutionalization of Buddhism

8:00 a.m.: essay 2 due

- 7) "for the protection of the nation" (護国国家) - Buddhism and the government
 8) what do Buddhist priests do? - the institution of funeral Buddhism (葬式仏教)
 9) kabuki, tea, and manga - Buddhism and Japanese Culture
 recommended: Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 1209-1215 & 1224-1227.

Thursday, August 27, 2015: Japanese thought and modernity

8:00 a.m.: essay 3 due

- 10) what are the ethics, beliefs, and ideology of Shintō? (Moto'ori Norinaga and Hirata Atsutane)
 recommended reading: excerpts from Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 472-493.
 11) God or the "great lie"? - the encounter of Japan and Europe prior to 1900 C.E.
 recommended reading: Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 1038-1047.
 12) reason or tradition? - Japanese responses to modernism (Fukuzawa Yukichi and the two Inoues)
 recommended reading: excerpts from Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 589-604 & 611-631.

Friday, August 28, 2015: Contemporary issues

8:00 a.m.: essay 4 due

- 13) individual, nation, world - how to live in a globalized world? (the Kyoto school controversy)
 recommended: Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 692-702.
 14) gender, race, and ethics - what do contemporary Japanese thinkers say about inter-human relationships
 recommended: Japanese Philosophy - A Sourcebook, pp. 1115-1138 & 1109-1111 & 589-597.
 15) pilgrimages, T.V. shows, and new religions - Japanese religions today!
 recommended reading: The Invention of Religion in Japan, "Conclusion."

Saturday, August 30, 2014

8:00 a.m.: essay 5 due

成績評価方法

成績評価基準

Attendance 25%

Participation 25%

5 reflection essays (100 words each): 50% (10% each)

テキスト

教科書1	ISBN	0824836189				
	書名	Japanese philosophy : a sourcebook				
	著者名	edited by James W. Heisig, Thomas P. Kasulis, John C. Maraldo,	出版社	University of Hawai'i Press	出版年	2011
	備考					

参考図書

参考書1	ISBN	082482850X				
	書名	Shinto : the way home / Thomas P. Kasulis				
	著者名		出版社	University of Hawai'i Press	出版年	2004
	備考					
参考書2	ISBN	0226412342				
	書名	The invention of religion in Japan				
	著者名	Jason Ananda Josephson,	出版社	The University of Chicago Press	出版年	2012
	備考					

学生へのメッセージ

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

連絡先 (電話番号)

連絡先 (メールアドレス)

※※ オフィスアワー

※※ 連絡先 (ホームページ、その他)

※※ 関連ホームページ

※※ その他・備考

2015 年度 前期 教養学部 教養学科		日英区分：日本語	
Security Issues in East Asia Security Issues in East Asia			
ナンバリング		科目分野	
IREL3062		教養学部専門	
担当教員（ローマ字表記）			
平川 幸子 [Hirakawa, Sachiko]			
対象学生	対象年次	単位数	
		2	
必修・指定選択・選択の別	曜日時限	教室	
	集中		
科目群		講義番号	
		F15051	

クラス指定

他との関連（関連項目）

履修条件（授業に必要な既修科目または前提知識）

国際関係学や外交史、安全保障分野に関心があり、それを英語で学びたいという人のための講座です。

テーマ・課題

Understanding theory, history and issues of East Asian security

授業科目の到達目標

- 1) To explain "security" concepts from IR (International Relations) theoretical perspective.
- 2) To get basic knowledge of regional history of East Asia, especially during the Cold War period.
- 3) To broadly review the regional security issues through reading "East Asian Strategic Review 2015" (published by National Institute of Defense Studies).

学科・専修等の学習・教育目標との関連

授業キーワード

Security, East Asia, power transition, Cold War history, multilateral cooperation

授業の内容

This course broadly surveys international relations of East Asia, especially focusing on security and strategic dimensions. East Asia is now seeing power transition; rise of China and relative decline of US and Japan power. How does it affect current regional stability and prosperity? The region's "status quo" is being challenged? This course attempts to explain such regional dynamics based on IR theories as well as historical interpretation. Earlier sessions give background lectures on theoretical framework and historical perspective to approach issues. Later sessions are conducted as reading seminars to broadly understand the current regional security issues. We will carefully read East Asian Strategic Review 2014. Students are required to make a summary presentation of responsible chapters or sections, on which all class members will discuss based on the knowledge and approach given by the earlier lectures.

東アジア地域は著しい経済社会発展と相互依存を遂げながらも、中国の軍事力の近代化、海洋活動の活発化、北朝鮮によるミサイル発射など安全保障面では情勢が緊迫化しています。授業では、東アジア及びアジア太平洋地域の安全保障問題について、①国際関係学（IR）に基づく理論的理解、②戦後アジア地域史から連続する歴史的理解、③最新の地域情勢の概観、という三つの観点から学習します。前半で①②の基礎的な講義を行った後、後半は③の学習として『東アジア戦略概観2014』（防衛省防衛研究所編）の英語版の文献講読セミナー形式で実施します。履修生全員が分担して要約発表を行い、引き続きクラス全体で①②の知識や理解を適用させながら活発な討論を行います。

授業の方法・事前準備学習・事後展開学習

15回の授業のうち前半を講師による講義、後半を文献講読セミナーとして学生による発表、討論を中心に授業を進めます。授業言語は英語です。補助的に日本語を使うこともありますが、最終レポート（A4用紙、3～5枚程度）の使用言語は英語とします。履修者は講義の復習課題、発表の事前準備、討論への活発な参加が求められます。加えて、総括セッションでは各自、レポートの構想を簡単に発表してもらいます。

授業展開（スケジュール）

以下は予定。履修者数や理解度などに合わせて若干変更する可能性もあります。後半の文献講読は、ここでは2014年度版の章タイトルを参考に入れてあります。実際の授業では、最新の2015年版を使用します。その内容は5月初めに公開されるので防衛研究所ウェブサイト各自、確認してください。

Day 1

1. Guidance and Introduction: East Asia in 2014
2. Theoretical perspective: How do IR theories explain "security"? What are definitions?
3. Historical Perspective (1) Post WWII international order and origin of the Cold War

Day 2:

4. Historical Perspective (2) China divided, the Korean & Vietnam Wars
5. Historical Perspective (3) Sino-US rapprochement and after
6. The end of Cold War in Asia: When, why, how?

Day 3:

7. Cooperating or competing? Asian Multilateralism in the post Cold War: ASEAN, APEC, APT, EAS, CJK frameworks

- 8. Chapter 1 Japan: New Development of National Security Policy
- 9. Chapter 2 The Korean Peninsula: The Start of North Korea's "New Start of North Korea's New Strategic Line" and South Korea's "Trust Diplomacy"

Day 4

- 10. Chapter 3 China: The Xi-Li Administration Faces Rough Going
- 11. Chapter 4 Southeast Asia: More Complications in the South China Sea
- 12. Chapter 5 Australia: Bipartisan Consensus for Deeper Engagement in Asia

Day 5

- 13. Chapter 6 Russia: Launch of the Japan-Russia "Two-Plus-two"
- 14. Chapter 7 The United States: Asia-Pacific Rebalancing Put to the Test
- 15. Concluding Discussion

成績評価方法

レポート提出 70%
発表、討論など授業への貢献度 30%

成績評価基準

テキスト

教科書1	ISBN				
	書名	The National Institute for Defense Studies, East Asia Strategic Review 2015			
	著者名		出版社	出版年	2015
	備考				
教科書2	ISBN				
	書名	『東アジア戦略概観2015』			
	著者名	防衛省防衛研究所編	出版社	出版年	2015
	備考	*授業で使用するのは英語版の方です。書籍の購入もできますが、防衛研究所のウェブサイトからダウンロードも可能です。 http://www.nids.go.jp/english/publication/east-asian/e2013.html			
備考					

参考文献

参考書1	ISBN					
	書名	Understanding Global Conflict and Cooperation: An Introduction to Theory and History, 8th edition				
	著者名	Joseph S. Nye and David A Welch	出版社	Pearson Education	出版年	2011
	備考					
参考書2	ISBN					
	書名	『国際紛争 理論と歴史』(原書第3版)				
	著者名	ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デ ヴィッド・A・ウェルチ著 (田中明 彦、村田晃嗣訳)	出版社	有斐閣	出版年	2011
	備考					
参考書3	ISBN					
	書名	Contemporary Security Studies (3rd edition)				
	著者名	Alan Collins ed.	出版社	Oxford University Press	出版年	2013
	備考					
参考書4	ISBN					
	書名	『新訂第4版 安全保障学入門』				
	著者名	防衛大学校安全保障学研究会編著 武 田康裕、神谷万丈責任編集	出版社	垂紀書房	出版年	2011
	備考					
参考書5	ISBN					
	書名	The U.S.-Japan Security Alliance: Regional Multilateralism				
	著者名	Takashi Inoguchi, G. John Ikenberry, and Yoichiro Sato eds.	出版社	Palgrave	出版年	2011
	備考					
参考書6	ISBN					
	書名	The Nexus of Economics, Security, and International Relations in East Asia				
	著者名	Avery Goldstein and Edward Mansfield eds.	出版社	Stanford University Press	出版年	2012
	備考					
参考書7	ISBN					

著者	Tangles Titans: The United States and China				
著者名	David Shambaugh ed.	出版社	Rowman & Littlefield	出版年	2013
備考					

学生へのメッセージ

授業の主旨語は英語ですが、理解を確実にするために日本語も使用しますので、英語力を心配し過ぎる必要はありません。アジアの国際情勢に興味があり、英語での発信力を高めたいと考える学生を応援したいと思っています。5日間の集中授業ですが、講義や発表、討論、ビデオ鑑賞、小クイズ、グループワーク、ランチ討論などを組み合わせ、長時間でも飽きないインタラクティブな授業を考えていますので、積極的に参加してください。

人数制限 ※詳細は「その他・備考」欄を参照してください。

連絡先（電話番号）

連絡先（メールアドレス）

hirakawa@aoni.waseda.jp

オフィスアワー

休み時間や授業後に時間を取ります。

連絡先（ホームページ、その他）

関連ホームページ

その他・備考